

## 第8回日釣連チヌ釣りトーナメント大会 3位 和歌山県釣連盟 岩田 芳和



まずは各府県連盟の皆様方には遠路お越しいただきましたこと感謝申し上げます。

1回戦の場所は港を出てすぐのショウジョウに3名で渡礁した。ここは過去に2回乗ったことがある磯で、ある程度ポイントは分かっていたもののうねり波により釣座も限定的になったことに加えて、開始直後より雷雨のため約1時間中断となってしまった。大会本部より中断の指示がある前に雷を気にして自主的に竿を置くなど安全を最優先する意識の高さは流石であった。

残念ながら全員釣果無しでじゃんけん勝負となったが、運良く勝ち残ることができた。

2回戦はミゾというポイントで初めて乗る場所であったが、対戦者に同じクラブの南雲君がいた。彼は目良の主と言える存在であり、波高の中、安全面を考慮して釣座を決めてくれたことが心強かった。釣果はというと、最初に入った船着きでラッキーな1尾を釣り上げることができたが、タモを近くに置いていなかった（波のために置けなかった）ため、抜き上げる形となった。磯が低いことが幸いし、何とか取り込みに成

功したが磯の上でも泳ぎ回られてヒヤヒヤものであった。この一尾が2回戦で唯一の釣果となり、なんとか決勝戦に駒を進めることが出来た。



決勝戦は当初予定していた沖磯は依然波が高く、急遽ミゾが決勝戦の舞台に変更となった。決勝戦に向けてオキアミ、集魚材が配られるとのことで大いに助かった。というのも2回戦の途中で脚立に乗せていたバツカンが波で倒され、何とか回収したものの半分以上が流出かつ、おかゆ状態になってしまった。高級集魚材をたくさん頂き、サポーターに入ってくれた中後さんが撒き餌を作ってくれたおかげで復活というより、最高の撒き餌ができあがった。



海況は徐々に潮が下がったことで釣り易くはなったが相変わらずぱっとせず、釣果も無いまま最後の場所交代を迎えてしまった。この時点で対戦相手のお二人は一尾おでこのまま確保されていたが私だけが、このまま。終了20分前にひとつ頭に浮かんだことがあった。

「チヌな人」という言葉である。これは見老津の船頭から聞いた話であるが、チヌな人とはコスイ（ずるい）人を指す意味で、素潜り漁師が貝を取るために砂泥を上げると直ぐにチヌが姿を見せて最初は警戒心が強いものの、自分の身に危険がないと判ったら大胆に横取りしに来るということであった。

仕掛けを入れずに一カ所に5分ほど集中的に撒き餌を打ち、満を持して入れたウキが海中に吸い込まれて待望の1尾を取り込むことができたが、ジ・エンドとなり結果3位であった。



また、40分交代の釣りは初めてであったが、時間の使い方を含めて大いに勉強となった1日であった。

最後になりましたが、悪天候の中、開催にご尽力頂きました役員の皆様、サポートを頂きました方々に心より御礼申し上げます。

目良は低い磯ばかりですが、チヌだけでなくグレをはじめ、すこぶる魚影の濃いところですので機会があれば是非お越し頂きたいと存じます。